

## プロロジス、北上金ヶ崎 IC 隣接地にてマルチテナント型 物流施設「プロロジスパーク北上金ヶ崎」の竣工式を挙る

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)は、2025年12月18日、岩手県金ヶ崎町において、マルチテナント型物流施設「プロロジスパーク北上金ヶ崎」の竣工式を執り行ったと発表しました。既に75%の面積において賃貸契約を締結済みで、引き続き入居企業を募集しています。



「プロロジスパーク北上金ヶ崎」:手前のスペースには「プロロジスパーク北上金ヶ崎2」が開発される予定

竣工式には、岩手県関係者の方々、金ヶ崎町の高橋 寛寿 町長をはじめ町関係者の方々、設計を担当する川田工業株式会社、施工を担当する川田工業・平野組・丸井重機建設特定建設工事共同企業体を代表し、川田 忠裕 代表取締役社長をはじめ関係者の方々、プロロジスからは山田御酒らが参列し、施設の完成を祝いました。

### ■ 開発地:東北広域配送に最適な立地「2024年問題」への対応として注目集まる

「プロロジスパーク北上金ヶ崎」は、東北を縦断する東北自動車道「北上金ヶ崎 IC」隣接地に開発されました。同地域は南北に物流の大動脈である東北自動車道や国道4号、東西に秋田自動車道や釜石自動車道が交わる地点に位置しています。

東北各地域へアクセスしやすく、盛岡市へ約60分、仙台市へ約90分、秋田市へ約120分で到達できる東北広域配送の好立地です。また、東北新幹線「北上駅」から車で約15分(約10km)、東北本線「金ヶ崎駅」から約10分(約6km)とアクセスしやすく、雇用にも有利な立地です。



トラックドライバーの時間外労働規制が強化される「2024年問題」への対応として、東北全域にアクセス

しやすい同地域への注目が高まっています。さらに、災害等におけるBCP(事業継続計画)の観点からも拠点の分散化の必要性が見直されており、同施設は仙台に次ぐ新たな物流拠点として期待が寄せられています。このような背景から、「プロロジスパーク北上金ケ崎」は既に賃貸面積の約75%において賃貸契約を締結済みです。

隣接地にはBTS型物流施設(特定企業専用物流施設)「プロロジスパーク北上金ケ崎2」の開発が決まっています。規模や階数、棟数などの施設設計は、入居企業の要望に合わせて行う予定です。保管場所の需要が急増している化粧品やアルコール類などの保管も可能なHAZMAT(危険物倉庫)や、冷凍冷蔵倉庫の整備、製造業への対応として耐荷重の増強なども柔軟に対応します。

### ■ 施設概要:降雪時も安全・効率的なオペレーション、各専有部1階にラウンジスペースを設置

「プロロジスパーク北上金ケ崎」は、約78,500㎡の敷地に地上2階建て、延床面積約55,000㎡のマルチテナント型物流施設として開発されました。両フロアとも有効天井高は約5.5m、床荷重は1㎡当たり1.5tを確保した、汎用性の高い大型物流施設となっています。



1・2階を縦に一体利用できるメゾネット型の物流施設で、高い保管効率を実現しています。荷物用エレベーターを備え、迅速な荷捌きを可能にするとともに、将来的には垂直搬送機の追加にも対応可能です。1階には建物内部を通る2つの車路に沿って着車できる高床式トラックバースを設け、天候に左右されないスムーズなアクセスと荷捌きをサポートします。さらに、敷地内動線は全ルートを一方通行を基本とし、安全性と機動性の向上を図ります。

降雪時にも安全で効率的なオペレーションを確保するために、施設側で除雪サービスを提供し、施設の雨どいには融雪ヒーターを整備。雪置き場は、外構スペースの利用を妨げない位置に設置します。

全長約280mという施設の特性に合わせ、1階それぞれの専有部の事務所横にラウンジと給湯スペースを配置しました。入居企業スタッフの移動負担を避けるべく、共用ラウンジはあえて設けず、来客対応や休憩に適した環境を各区分内で完結できるよう整えました。

セキュリティ面では、常時有人警備を実施して、24時間365日の入居企業の事業継続をサポートします。

現在の募集区画は4,000坪で、1,500坪と2,500坪に分割しての対応も可能。現在の荷物用エレベーター2基に加え、垂直搬送機の追加もできます。

### ■ サステナビリティ: 廃棄された地域の特産品「アスパラガス」をアップサイクル

サステナビリティの取り組みとして、金ケ崎町の特産品であるアスパラガスや、青汁の原料野菜として知られるケールの廃棄物をアップサイクルしたアートワークを施設内に採用しました。

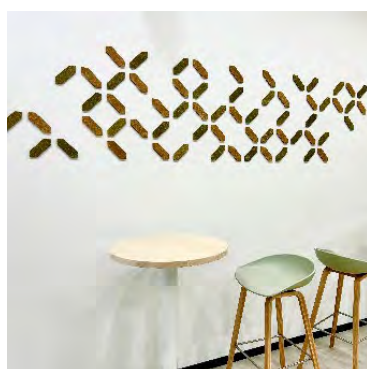


「プロロジスパーク北上金ケ崎」に集まった「アスパラガス」の茎部分。当初は廃棄予定だったが、プロロジスがアップサイクルし、施設内のアートワークとして活用した。



プロロジスは、アスパラガスが市場に出荷される過程で、通常、茎の部分が廃棄されることに着目しました。JA 岩手ふるさとに集まっていた計772.5kg の処分予定部分を「プロロジスパーク北上金ケ崎」に保管し、アート作品へと生まれ変わらせました。ケールは他県産のもので計500kg を再利用しました。

完成したアートワークのデザインは、円を組み合わせた「七宝柄」の中でも不規則に連なる「破れ七宝」を基調とし、カスタマー一人ひとりに臨機応変に寄り添うプロロジスの姿勢を表現。色彩は、プロロジスのロゴカラーをモチーフにし、直線を用いた図形は物流で扱われる段ボールや、スマートなイノベーションの創出を想起させます。



廃棄物をアップサイクルした施設内のアートワーク(写真下3枚)。右下と左上部分にアスパラガスを、その他にケールを再利用した。

見る人によって多様に解釈できるこのデザインは、プロロジスの柔軟性と多様性を象徴しており、「プロロジスパーク北上金ケ崎」のラウンジスペースのほか、外壁部分に採用されています。

#### 「プロロジスパーク北上金ケ崎」概要

名 称	プロロジスパーク北上金ケ崎
所 在 地	岩手県金ケ崎町六原土井道合、後平地内
敷 地 面 積	78,484.31㎡(23,741.50坪)
延 床 面 積	55,112.26㎡(16,671.46坪)
構 造	地上2階建て、鉄骨造
着 工	2024年6月
竣 工	2025年12月

## ■ 東北地方のプロロジスパーク

プロロジスは、東北自動車道沿線の IC 近接地に戦略的に拠点を取得し、「物流2024年問題」への対応として広域配送ネットワークをいち早く構築してきました。

東北地方ではこれまでに 13 棟の物流施設を開発し、現在は岩手県矢巾町や仙台市において「プロロジスパーク北上金ケ崎」を含む 6 棟の物流施設を開発・運営中です。また、福島県郡山市の物流拠点集積パーク「福島郡山 LL タウン」内に「プロロジスパーク郡山 2」を、仙台市において「プロロジスパーク仙台泉 3」を、岩手県金ケ崎町において「プロロジスパーク北上金ケ崎 2」の開発を計画しており、入居企業を募集しています。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先  
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム  
<https://prologis.form.kintoneapp.com/public/inquiry-media>